

《医師の意見書が必要な感染症》

病名	おもな症状	潜伏期	感染しやすい期間	登園のめやす
麻疹（はしか）	高熱が一旦解熱し、再び上昇する時に全身に発疹が出る。口腔内に白い斑点（コプリック斑）がみられる	9～12日	発熱1日前～発疹が出た後4日間	解熱後3日を経過してから
水痘（みずぼうそう）	微熱と発疹が全身に広がる 発疹から水疱になる	2～3週	発疹が出る1日前～かさぶたになるまで	全ての水疱がかさぶたになってから
風疹	発熱と小さい発疹が全身に広がり、首や耳の後ろのリンパ腺が腫れる	2～3週	発疹が出る数日前～出た後5日間	発疹が消失してから
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	耳下腺で炎症が起こり、耳の下からあごにかけて腫れと痛みがある。（片方だけの場合もある）38℃前後の発熱	2～3週	腫れる3日前～腫れがひいてから4日	腫れが出た後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで
インフルエンザ	39度近い高熱、筋肉痛、風邪、下痢や嘔吐などの症状。肺炎、脳炎などの合併症を起こす可能性もある	1～3日	発症24時間前～発症後3日間 が最も多く、7日以内に減る	発症後5日を経過し、かつ解熱後3日間（小学生以上は解熱後2日間）
百日咳	コンコンと乾いた咳が連続的にでる 最後にヒューという音をたてて深く息を吸い込むのが特徴（夜間に多い）	1～2週	咳出現後3週間を経過するまで（抗菌薬を服用したら5日後には陰性）	特有の咳が消える、または5日間の抗菌性物質製剤による治療終了まで
伝染性結膜炎（流行性角結膜炎など）	涙目、目やに、充血、異物感、痛みなど	5～12日	充血、目やになどの症状が出現した数日間	結膜炎の症状が消失してから
咽頭結膜熱（プール熱）	発熱・のどの腫れや痛み、結膜炎（目やに、充血、涙など）	5～7日程度	発熱・充血など症状が出現した数日間	主症状が消失した後、2日を経過してから
結核	発熱、咳、痰、食欲不振		喀痰の検査が陽性の間	感染の恐れがなくなってから

病名	おもな症状	潜伏期	感染しやすい期間	登園のめやす
腸管出血性大腸菌感染症 (O-157)	腹痛と下痢 (水様便)、血便。重症では溶血性尿毒症症候群、3歳以下では脳症を発症することがある	3～5日	便中に菌を排出している間	症状が治まり、かつ抗菌薬の治療が終了、検便で2回陰性になってから
溶連菌感染症	発熱、喉の痛み、全身の発疹 (でない場合もある)。舌がいちごのように赤くざらざらしている 数週間して、リウマチ熱や急性糸球体腎炎を合併することがある	2～5日	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後1～2日間	抗菌薬内服後24～48時間経過している
マイコプラズマ肺炎 (感染症も含む)	高熱、激しい咳(乾性の咳→湿性の咳、解熱後も3～4週間咳が持続)、鼻水	2～3週間	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後数日間	発熱や激しい咳が治まっていること
感染性胃腸炎 (ロタウイルス、ノロウイルス、アデノウイルスと診断された場合)	発熱、風邪症状(ない場合もある)のあと、下痢や嘔吐	1～3日	症状のある間と、症状消失後1週間 (量は減少しているが、数週間ウイルスを排出)	嘔吐、下痢などの症状が治まり、普段の食事がとれること
RSウイルス感染症	咳・苦しそうな呼吸。乳幼児、特に1歳以下で重症化しやすく、細気管支炎や肺炎の原因にもなる	2～8日	呼吸器症状のある間、唾液の中に数週間ウイルスを排出する	呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと
伝染性膿疱 (とびひ)	夏に多くみられる皮膚病。あせもや虫さされ、湿疹などにブドウ球菌が入り水疱をつくる。これがしだいに膿をもつようになり、強烈にかゆくなる。かいたりすると膜が破れ、飛び散りひろがる	2～10日	湿潤な発疹がある間	病巣が露出部で接触により伝染する恐れがある時は登園を控える 医師の登園許可ができれば、ガーゼで覆って登園

※アデノウイルス感染症と診断された場合も医師の意見書が必要です。

《園の嘱託医》

- ・きららこどもクリニック Tel (06) 6757-5109
- ・山本歯科医院 Tel (06) 4306-2202